

# 原子力発電について考える会・浜岡も危ない!

4.10 東別院会館

一月たっても収束の目処がつかない福島原発事故への関心は高く、急ぎたい会場に変更された(会員の参加も多数)学習会を瀬口が報告します。

講師 河田昌東さんのお話

- 原子力発電と火力発電は、蒸気でタービンを回す仕組みは同じだが、大きく異なるのは原発の場合、燃料が内部にあるということ。事故が起こった場合、たとえ核反応を止めることができても、燃料は放射線を出しながらずっと発熱し続ける。問題は使用済み燃料で、これが事故をさらに重大にした。
- 25年前のチェルノブイリ事故では、3~4年後に甲状腺がんが0~14才の子どもや女性に急増した。全体ではがんよりも心臓病、脳血管障害など、免疫低下によるものが多く、チェルノブイリでは、作業員の被ばくによる脳血管障害が数年後に増えた。福島でも作業員の被ばくが心配される。
- 放射能汚染の基準は、飲料水の場合だと、ウクライナでは6ベクレル、対して日本では200ベクレルと非常にゆがんだ。農産物についても、基準値以下なら、汚染農産物は流通にのり、我々は知らないうちにそれを食べることになる。日本の基準値もできるだけ早く引き下げるべきである。
- 電力自由化をすすめ、アメリカ、ヨーロッパのように電気を選べる(原発か、火力か、バイオか)法制度をつくるべき。ヨーロッパや中国ではバイオガス利用が大きく進んでいる。
- 東海地震は30年以内に必ず起きることが予測されている。このまま原発を運転させ続けるのは犯罪行為である。
- 放射能汚染された土地は、<sup>データ</sup>密度の高い調査をすすめ、公表させ、強汚染の土は5~10cmをはがし、弱い所では深くすき込み、中程度の場所では、バイオジェネレーションによる放射能除去が必要だろう。

(チェルノブイリでは、菜の花を育て放射能を吸収させ、土壌を浄化する「菜の花プロジェクト」によって、地域を再生させる試みが続けられています。放射能はタネ油には入らないので、ディーゼル燃料に変え安全に利用する事ができるそうです。

..... スタッフも参加しました .....

●会場で、お話しされた方のヒヤリが、「今だから、原発のことを、周りのひとと語り」と言われました。「このテの話題についてくる、相手に引かれたらどうか」という遠慮や、「ドキドキ、もやもやを一步のリズで、まずは身近なひとと語ってみよう」と。ああ、そうか。震災の日以来、新聞を読んだり、節電をしてみたり、自転車をこぎながら祈りをしてみても、何かが足りない。気持ちだったのは、「ひとりでいたい」から。そこに、気付けるとのできた日でした。自分の声を伝えて、声を聴きとるアンテナも張って、つながりをコツコツと積みたいとおもっています。(かとう)